

2006年2月3日

東武鉄道「伊勢崎線第37号踏切」での死傷惨事に係る
踏切保安係の判決公判の傍聴記録

半沢一宣

日時 2006年2月3日(金曜日)10時00分～10時08分
場所 東京地方裁判所506号法廷(前回と同じ)
法廷前の廊下に掲示されていた、担当裁判官などの氏名
(実際は縦書き。検察官の構成が変わった)

裁判長	入江猛
裁判官	奥田洋平、西岡慶記
書記官	吉田、秀島、山田、山崎、中澤、清水、堤、福岡、大里
検察官	星野、平野、井草、近嵐、永井、山田、堤

報道関係者分を除いた一般傍聴席数 20席(先着順で傍聴券を交付)
半沢は8時20分の裁判所開門と同時に傍聴券交付待ちの列に並び、その1番目。
傍聴券交付の9時45分時点で傍聴券を受け取ったのは16人。
報道席の白いシートがかけられていない、一般用の傍聴席数は26席。

- ・9時57分に傍聴人の入廷が完了。入江裁判長は「開廷時間の10時になるまで、もうしばらくお待ちください」と告げる。
- ・10時になり、入江裁判長が開廷を宣言。被告人を証言台に立たせ「小松完治被告ですね?」と確認の人定質問をしてから、判決文の読み上げ。

(判決文は別に掲載)

- ・入江裁判長から小松被告への、判決文以外の個人的なメッセージは無し。
- ・入江裁判長は、小松被告に控訴ができる権利とその手続き方法を説明した後「判決の言い渡しを終わります」と宣言。
- ・傍聴人全員が十数秒間きょとんとする中、書記官が「傍聴人は法廷の外へ出てください」と促し、公判終了を告げられる。
- ・傍聴人の退廷が始まったころ、星野検察官が小松被告に小声で何かを話しかけていた。

以上